

# Keiba Global Front Line



## 競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人をご紹介します

### 合田 直弘

6月5日にエプソムダウンズで行われるG1英ダービー(芝12F6Y)は、今年が242回目の開催という歴史ある一戦だ。今回のこのコラムは、その英ダービーに有力馬として出走予定のポリシヨイバレエ(牡3、父ガリレオ)を主役としてとりあげたい。

母アルタアンナは仏国産馬で、現役時代は一度も出走することなく引退。ポリシヨイバレエはその6番子となる。

3歳年上の全兄に、19年のG3愛セントレジャートライアル(芝14F)を制した後に豪州人馬主が買収し、G1愛セントレジャー(芝14F)3着を手土産に豪州に移籍したサザンフランスがいる。移籍初戦となったG1メルボルンC(芝3200M)は19着に大敗したものの、サザンフランスはその後、G2ジッピンググラシツク(芝2400M)に優勝。去勢されて、現在も現役を続けている。

母アルタアンナの10歳年上の半姉アバシヤル(父カルドゥーン)は、G1仏オークス(芝2100M)の2着馬だ。

そして、母アルタアンナの9歳年上の半姉オーベルゲイド(父カルドゥーン)は、仏国でG3ペネロプ賞(芝2100M)2着、G2ポモーヌ賞(芝2700M)3着などの成績をあげた後、安平のノーザンファームで繁殖入り。初仔のグッドネイバー(父サンデーサイレンス)は、LR若葉S

(芝2000M)3着などの成績をあげている。

ポリシヨイバレエの母の父は、G1ジュライC(芝6F)やG1モーリスドゲスト賞(芝1300M)を制したアナバー(父ダンジグ)だ。アナバー牝馬にガリレオというのは、G1愛ダービー(芝12F)などつづのG1を制したカプリ、G1ヨークシャーオークス(芝11F188Y)など3つのG1を制したラッシュユッシーズと同配合となる。

クールモアが所有し、エイダン・オブラインが管理するポリシヨイバレエは、2歳10月にデビュー。2戦目となったレパードスタウンのメイドン(芝8F)を4馬身差で制し、初勝利を挙げた。その勝ち方に意を強めた陣営は、わずか8日後に仏国で行われたG1クリテリウムドサンクルー(芝2000M)に同馬をぶつけたが、ここは勝ち馬に2.1/4馬身及ばぬ5着に終わっている。素質の片りんは見せたものの、クラシツク候補に名を連ねるほどの存在ではなかったのが、2歳シーズンを終えた時点でのポリシヨイバレエだった。

今季初戦となったのが、4月11日にレパードスタウンで行われたG3バリーサクスクス(芝10F)で、道中2番手につけたポリシヨイバレエは直線残り300mを切った辺りで先頭に立つと、最後は後続に2.1/4馬身差をつけて優勝。重賞初制

覇を果した。

そして、英ダービーを前にした最後レップとなったのが、5月9日にレパードスタウンで行われたG3愛ダービートライアルS(芝10F)で、これも2番手追走から残り700Mで早々に先頭に立つと、後に6馬身という決定的な差をつけて、ポリシヨイバレエは重賞連勝を飾ったのだ。

愛ダービートライアルと言えば、80年代から90年初頭にかけて、ゴールドンフリス、サドラーズウェルズ、シアトリカル、サンジョヴィといった馬が、このレースをステッピングボードにG1勝ち馬に成長し、出世レースと言われた一戦だ。さらにその後、00年のシンダー、01年のガリレオ、02年のハイチャパラルと、このレースの勝ち馬が3年連続で英ダービーを制し、英ダービーと最も相性の良い前哨戦との定評を確立している。

だが、その後は情勢が一変。02年のハイチャパラルを最後に、愛ダービートライアルと英ダービーを連覇した馬は出現していない。

10日の段階で、ブックメーカー各社が2.75倍のオッズを掲げ、英ダービー前売り1番人気に推すポリシヨイバレエが、近年の傾向を覆せるかどうか、注目が集まっている。